

- 富士電機のSDGs
- ESG (環境・社会・ガバナンス)
- 環境
 - 方針・環境ビジョン2050・TCFD提言に沿った取り組み
 - 環境マネジメント
 - 環境経営の実績・データ
 - 脱炭素社会の実現
 - 循環型社会の実現
 - 事業活動における廃棄物の削減
 - 水資源の有効利用
 - 製品の環境負荷低減を目指した取り組み
 - 自然共生社会の実現
- 社会
- ガバナンス
- ESGインデックス
- ISO26000対照表
- 社外からの評価
- PCB使用電気機器の判別について

関連資料

- ▶ 富士電機レポート2021
- ▶ 報告書バックナンバー
- ▶ 環境カタログ
- 「Blue Navigation」
- ▶ 資料請求

環境・社会・ガバナンス

事業活動における廃棄物の削減

富士電機は、「環境保護基本方針」および「環境ビジョン2050」に基づき、「循環型社会の実現」を目指し、サプライチェーン全体で3R(リデュース、リユース、リサイクル)を指向した活動を推進しています。その一環として生産時に発生する余材の再生利用向上を目指し、廃棄物(埋め立て処理)の削減に取り組んでいます。

事業活動における廃棄物の削減

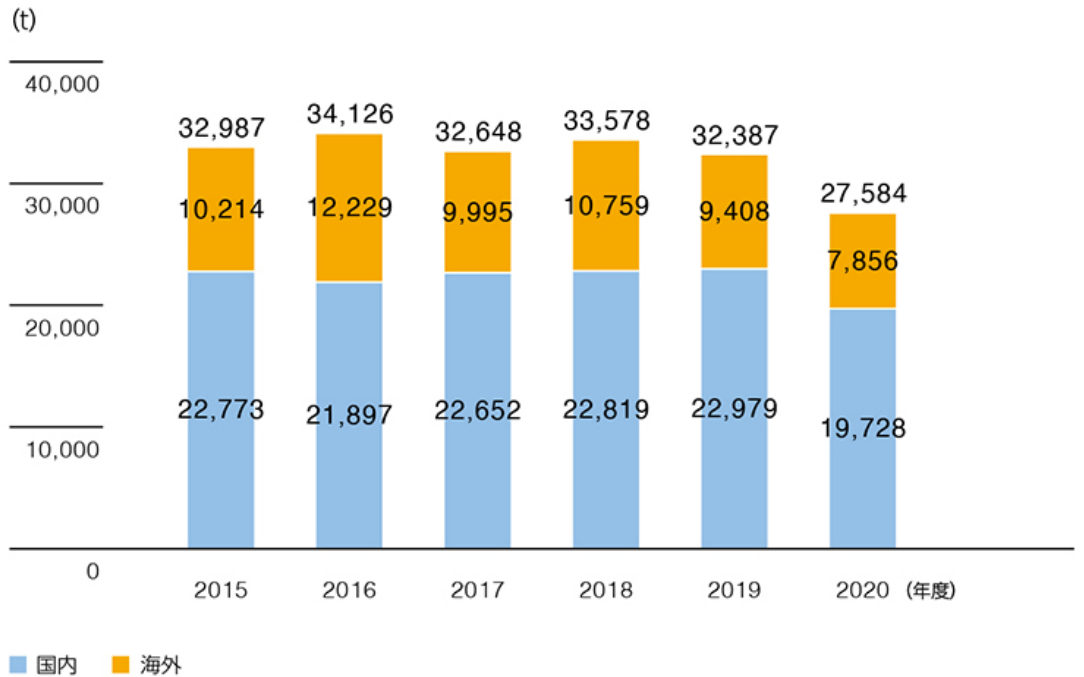
製品における小型・軽量化や規制物質を使わない設計、製造段階での品質活動による不良低減などへの取り組みで、廃棄物の総量の削減、再資源化、埋め立て廃棄物量の削減を目指しています。目標は、最終処分量(埋め立て処分量/廃棄物等発生量)を1%未満とするゼロエミッションです。

国内では、資源の有効利用(使用量抑制、再使用、再利用)によるゼロエミッションを2004年度以降継続して達成しています。2020年度は、溶解炉のオーバーホールによって鉍さいが多く排出されたことから、埋め立て廃棄物量が増加しました。このため、最終処分量(国内)は0.62%となり、目標値(0.5%)は未達となりました。2021年度は、鉍さいの再資源化ルートが確定したことから、鉍さいによる埋め立て廃棄物量は削減する見込みです。

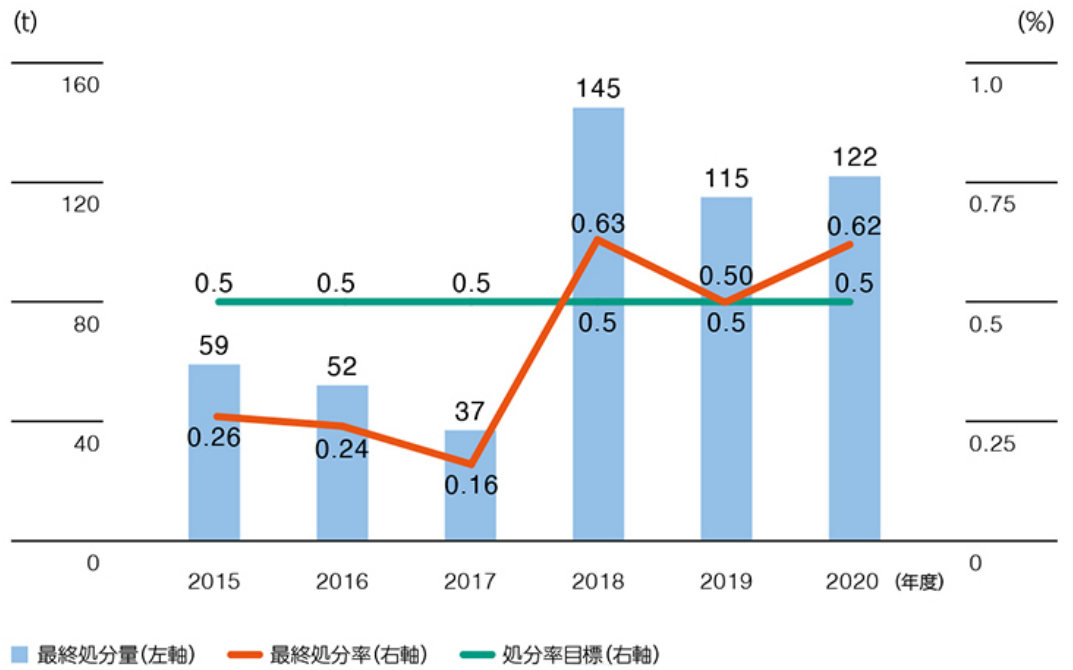
海外では、年々再資源化が進み、最終処分量は低減してきました。2020年度はコロナウイルスの影響を受けて、再資源化業者が一時操業停止となったことから、セメント原料へ再資源化していたマレーシアの無機性汚泥が埋め立て処分されました。結果、最終処分量は4.7%に悪化し、目標値(3.0%)は未達となりました。現在では、汚泥の再処理はコロナ以前の状態に戻っています。

2020年度は、全社の最終処分量は1.8%となり、目標値(2.0%)を達成しました。今後2030年度までに「全社最終処分量1%未満」達成に向けて継続して取り組みます。

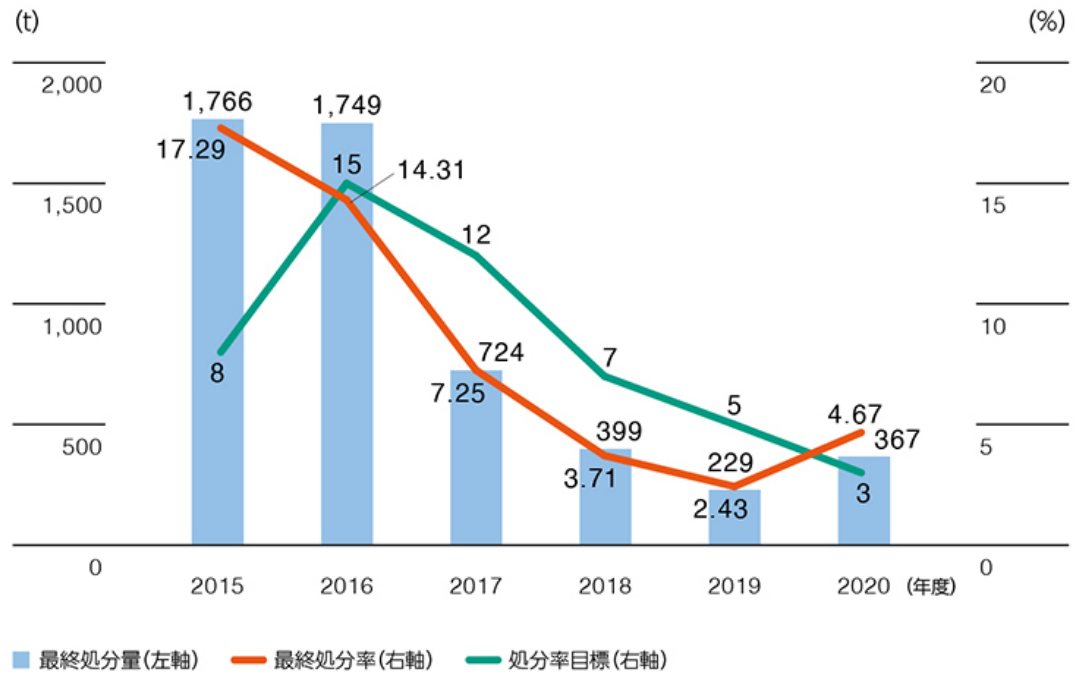
廃棄物発生量の推移



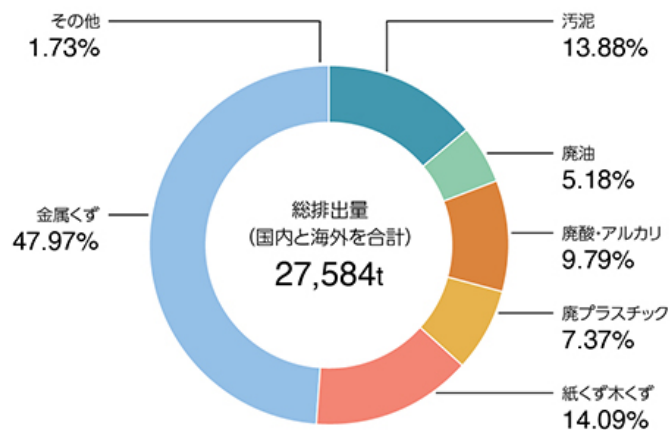
国内の最終処分量・最終処分量率の推移



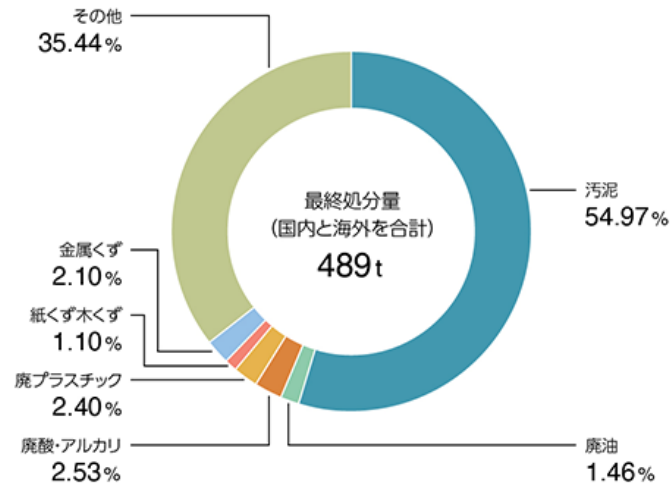
海外の最終処分量・最終処分率の推移



2020年度 廃棄物発生量の構成比 (国内+海外)



2020年度 廃棄物最終処理量の構成比（国内+海外）



[DATA](#) » 廃棄物発生量・埋め立て量内訳 推移データ

[DATA](#) » 第三者検証報告書